

令和5年4月18日(火)

新しい1,000円札の顔「北里柴三郎」

来年、デザインが一新される1,000円札の肖像画は、「ペスト菌」発見で知られる、北里柴三郎です。現行1,000円札の野口英世に続き、今度の刷新も医療関係の偉人となりました。

北里柴三郎は1853年1月29日、現在の熊本県小国町で生まれました。18歳になると、親の願いもあり、現在の熊本大学医学部へ進学し、そこで出会ったオランダ人医学者のマンスフェルトの指導を受けます。卒業後は、現在の東京大学医学部へ進みます。在学中「医者使命は治療以上に、病気を予防することにある」と確信し、予防医学を一生の仕事にしようと決意し、衛生局で勤めました。

衛生局では脱水症状によって死に至る「コレラ」の原因を発見したり、妊娠しているかどうかの見分け方を広めたりしました。

北里柴三郎は発症すると死亡する確率が高いことで知られる「破傷風」の予防・治療法を開発し、世界に認められました。その後、1894年香港で流行していた「ペスト」の原因調査に赴き、「ペスト菌」を発見したうえで、有効な予防法や消毒法を実施しました。

北里柴三郎は、後進の指導にも熱心に取り組んでいます。伝染病研究所から北里研究所時代で過ごした40年あまりで、赤痢菌発見者の志賀潔や黄熱病の研究で有名な野口英世など優秀な弟子も育成し、日本医学の発展に貢献しました。

「研究だけをやっていてはダメだ。それをどうやって世の中に役立てるかまで考えるべきだ」という北里柴三郎の信念は、弟子たちにも受け継がれ、現在に至っています。そして、新しい1,000円札となり、私たちにその精神が受け継がれようとしています。